

園評価票

A-1 教育・保育の基本

A-1(1) 養護と教育の一体的展開

A-1(1)-① こども園の教育・保育方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した教育・保育課程を編成している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	教育・保育課程が、保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、家庭及び地域の実態に即してよく編成されている。	A
B	教育・保育課程が、保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、家庭及び地域の実態に即してよく編成されているが、改善が必要である。	
C	教育・保育課程が、保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、家庭及び地域の実態に即して編成されていない。	

A-1(1)-② 乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	適切な環境が整備され、保育の内容や方法が十分配慮されている。	A
B	適切な環境が整備され、保育の内容や方法が十分配慮されているが、改善が必要である。	
C	適切な環境が整備され、保育の内容や方法が十分配慮されていない。	

A-1(1)-③ 1・2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	適切な環境が整備され、保育の内容や方法が十分配慮されている。	A
B	適切な環境が整備され、保育の内容や方法が十分配慮されているが、改善が必要である。	
C	適切な環境が整備され、保育の内容や方法が十分配慮されていない。	

A-1(1)-④ 3歳以上児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	適切な環境が整備され、保育の内容や方法が十分配慮されている。	A
B	適切な環境が整備され、保育の内容や方法が十分配慮されているが、改善が必要である。	
C	適切な環境が整備され、保育の内容や方法が十分配慮されていない。	

A-1(1)-⑤ 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに十分配慮されている。	A
B	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに十分配慮されているが、改善が必要である。	
C	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに十分配慮されていない。	

A-1-(2) 環境を通して行う保育

A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境を整備している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が十分整備されている。	A
B	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が十分整備されているが、改善が必要である。	
C	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が十分整備されていない。	

A-1-(2)-② 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	基本的生活習慣を身につけ、身体的な活動ができるよう環境が十分整備されている。	A
B	基本的生活習慣を身につけ、身体的な活動ができるよう環境が十分整備されているが、改善が必要である。	
C	基本的生活習慣を身につけ、身体的な活動ができるよう環境が十分整備されていない。	

A-1-(2)-③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもが主体的に活動したり、友だちとの協同的な体験ができるような人的・物的環境が十分整備されている。	B
B	子どもが主体的に活動したり、友だちとの協同的な体験ができるような人的・物的環境が十分整備されているが、改善が必要である。	
C	子どもが主体的に活動したり、友だちとの協同的な体験ができるような人的・物的環境が十分整備されていない。	

A-1-(2)-④ 子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような人的・物的環境が整備されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような、人的・物的環境が十分整備されている。	B
B	子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような、人的・物的環境がどちらかといえば整備されている。	
C	子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような、人的・物的環境が十分整備されていない。	

A-1-(2)-⑤ 子どもが言葉豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	豊かな言語環境や様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が十分整備されている。	A
B	豊かな言語環境や様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が十分整備されているが、改善が必要である。	
C	豊かな言語環境や様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が十分整備されていない。	

A-1-(3) 職員の資質の向上

A-1-(3)-① 保育士等が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が図られている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	保育士等が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が十分図られている。	A
B	保育士等が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が十分図られていない。	
C	保育士等が主体的に自己評価に取り組んでいない。	

A-2 子どもの生活と発達

A-2-(1) 生活と発達の連続性

A-2-(1)-① 子どもの一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子ども一人ひとりを受容した保育内容や保育士の援助が適切に行われている。	B
B	子ども一人ひとりを受容した保育内容や保育士の援助が適切に行われているが改善が必要である。	
C	子ども一人ひとりを受容した保育内容や保育士の援助が行われていない。	

A-2-(1)-② 障害のある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に十分な配慮がみられる。	B
B	障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に十分な配慮がみられるが改善が必要である。	
C	障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境や保育内容について、配慮されていない。	

A-2-(1)-③ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に十分に配慮されている。	A
B	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に十分に配慮されているが改善が必要である。	
C	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に十分に配慮されていない。	

A-2-(2) 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場

A-2-(2)-① 子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもの健康管理は、マニュアルや保健計画などで全職員が共通理解し、子ども一人ひとりの健康状態に応じて適切に実施している。	A
B	子ども一人ひとりの健康状態に応じて健康管理を実施しているが、マニュアルや保健計画などはなく改善が必要である。	
C	子ども一人ひとりの健康状態に応じて健康管理を実施していない。	

A-2-(2)-② 食事を楽しむことができる工夫をしている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	食事を楽しむことができるよう適切な環境設定や工夫をしている。	A
B	食事を楽しむことができるよう適切な環境設定や工夫をしているが、改善が必要である。	
C	食事を楽しむことができるよう適切な環境設定や工夫をしていない。	

A-2-(2)-③ 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理が十分工夫されている。	A
B	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理が十分工夫されているが、改善が必要である。	
C	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理が十分工夫されていない。	

A-2-(2)-④ 健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、必要に応じて保育に十分反映させている。	A
B	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、必要に応じて保育に十分反映させているが、改善が必要である。	
C	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、必要に応じて保育に十分反映させていない。	

A-2-(3) 健康及び安全の実施体制

A-2-(3)-① アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、専門的な指示を受け、保護者と連携し、適切に対応している。	A
B	アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、専門的な指示を受け、保護者と連携し、適切に対応しているが、改善が必要である。	
C	アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、専門的な指示を受け、保護者と連携し、適切に対応していない。	

A-2-(3)-② 調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制が整備されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	調理場、水周りなどの衛生管理のためのマニュアルがあり、常に清潔に保つなど適切に実施されている。	B
B	調理場、水周りなどの衛生管理のためのマニュアルがあり、常に清潔に保つなど適切に実施されず改善が必要である。	
C	調理場、水周りなどの衛生管理のためのマニュアルがなく、適切に実施されていない。	

A-3 保護者に対する支援

A-3-(1) 家庭との緊密な連携

A-3-(1)-① 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	食を通して、保護者が食育に関心が持てるような十分な取組をしている。	A
B	食を通して、保護者が食育に関心が持てるような具体的な取組をしているが、改善が必要である。	
C	食を通して、保護者が食育に関心が持てるような具体的な取組をしていない。	

A-3-(1)-② 家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行なっている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加えて、別の機会を設けて相談に応じたり個別面談などを行っている。	A
B	送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換や、個別懇談は行っているが、改善が必要である。	
C	送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換や、個別懇談は行っていない。	

A-3-(1)-③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者の保育参加など、保護者と共通理解を得るための機会を十分設けている。	A
B	懇談会などの話し合いの場を設けているが、保護者と共通理解を得るためには改善が必要である。	
C	懇談会などの話し合いの場を設けているが、保護者と共通理解を得るための機会を設けていない。	

A-3-(1)-④ 虐待に対応できるこども園内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に積極的に努めている。	A
B	虐待に対応できる保育所内の体制の下、虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努めているが、取組の改善が必要である。	
C	不適切な養育や虐待を疑われる子どもの早期発見や虐待の予防に努めていない。	

A-4 苦情解決体制

A-4-(1)-① 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	苦情解決受付責任者・苦情解決責任者・第三者委員を保護者に明示し、説明を行っている。また、懇談会・アンケート等で進んで要望や苦情を聞いている。	B
B	苦情解決受付責任者・苦情解決責任者・第三者委員を保護者に明示し、説明を行っている。また、懇談会・アンケート等で進んで要望や苦情を聞いているが改善が必要である。	
C	苦情解決受付責任者・苦情解決責任者・第三者委員を保護者に明示し、説明を行っていないし、懇談会・アンケート等で進んで要望や苦情を聞いていない。	

A-4-(1)-② 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	第三者委員を交えて対応する仕組みが出来ていて、要望・苦情の解決策が会議等を通じて職員に周知・理解されている。また、データを蓄積し、整理し、解決に生かしている。	A
B	第三者委員を交えて対応する仕組みが出来ていて、要望・苦情の解決策が会議等を通じて職員に周知・理解されているが取組に改善が必要である。	
C	第三者委員を交えて対応する仕組みがなく、要望・苦情の解決策が会議等を通じて職員に周知・理解されていない。	

A-5 安全管理

A-5-(1)-① 安全管理に対するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	安全管理に対するマニュアルが整備されていて、事故や災害に適切に対応しており、全職員に周知されている。	B
B	安全管理に対するマニュアルが整備されていて、事故や災害に適切に対応しており、全職員に周知されているが、取組が十分でなく改善が必要である。	
C	安全管理に対するマニュアルが整備されていない。	

A-5-(1)-② 事故やけがの発生時及び事後の対応体制が確立している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	保護者や救急機関への連絡体制が確立していて、軽傷であっても必ず保護者へ状況を報告し記録している。また、職員会議等で事故の報告、再発防止などの改善策を話し合っている。	A
B	保護者や救急機関への連絡体制が確立していて、軽傷であっても必ず保護者へ状況を報告し記録しているが、取組が十分でなく改善が必要である。	
C	保護者や救急機関への連絡体制が確立されていないし、事故報告・再発防止の取組がない。	

A-6 地域支援機能

A-6 地域のニーズに応じた子育てサービスの提供

A-6-(1)-① 地域の子育て支援ニーズを把握するための取組を行う。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	地域住民との交流の中で、施設に対する要望を把握するために具体策を講じている。	C
B	地域住民との交流の中で、施設に対する要望を把握するために具体策を講じているが、取組が不十分で改善が必要である。	
C	地域住民との交流の中で、施設に対する要望を把握するために具体策を講じていない。	

A-6-(1)-② 地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	地域での子育てサービス（園開放、子育て相談等）を提供し、地域の子育てニーズについて職員間で話合われている。	B
B	地域での子育てサービス（園開放、子育て相談等）を提供し、地域の子育てニーズについて職員間で話合われているが十分ではなく改善が必要である。	
C	地域での子育てサービス（園開放、子育て相談等）を提供していない。	

A-7 ボランティア・実習の受入

A-7-(1)-① ボランティアの受入や育成を積極的に行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	受入方針を利用者や職員に周知され、受入担当者が決められており記録が整備されている。また、ボランティアの感想意見を園運営に反映されている。	B
B	受入方針を利用者や職員に周知され、受入担当者が決められており記録が整備されているが、十分でなく改善が必要である。	
C	受入方針を利用者や職員に周知され、受入担当者が決められており記録が整備されていない。	

A-7-(1)-② 実習生の受け入れを適切に行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	受入のための担当者が決められており、実習目的に応じた効果的な実習が行われるよう工夫している。	B
B	受入のための担当者が決められており、実習目的に応じた効果的な実習が行われるよう工夫しているが十分でなく、改善が必要である。	
C	受入のための担当者が決められておらず、実習目的に応じた効果的な実習が行われるよう工夫がなされていない。	

A-8 職員の人材育成

A-8-(1)-① こども園職員としての人材育成のため取組を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	こども園運営に必要な人材補充を行っており、研修等人材育成のための研修を行い、職員の資質向上のための方策がなされている。	B
B	こども園運営に必要な人材補充を行っており、研修等人材育成のための研修を行い、職員の資質向上のための方策がなされているが十分でなく、改善が必要である。	
C	こども園運営に必要な人材補充を行っており、研修等人材育成のための研修を行い、職員の資質向上のための方策がなされていない。	

A-8-(1)-② 職員のスキルの段階に合わせて計画的に資質の向上に取り組んでいる。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	職員の自己評価やこども園の自己評価を計画的に行う仕組みを持ち、会議・勉強会を通じ工夫、改善に取り組んでいる。	B
B	職員の自己評価やこども園の自己評価を計画的に行う仕組みを持ち、会議・勉強会を通じ工夫、改善に取り組んでいるが十分でなく改善が必要である。	
C	職員の自己評価やこども園の自己評価を計画的に行う仕組みがない。	

A-8-(1)-③ 保育士等の自己評価を踏まえ、こども園の自己評価を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	保育士等の自己評価を行い、その結果からこども園の自己評価を行っており、公表している。	B
B	保育士等の自己評価を行い、その結果からこども園の自己評価を行っているが十分でなく改善が必要である。	
C	保育士等の自己評価及びこども園の自己評価を行っていない。	

A-9 施設長のリーダーシップ・主任の役割

A-9-(1)-① こども園の理念や基本方針等について職員に周知されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	理念・基本方針を明文化したものを掲示又は職員に配布し、理解を促すための説明を行っている。また、職員が理解できているか、園長・主任が確認（採用時・採用後年1回）	B
B	理念・基本方針を明文化したものを掲示又は職員に配布し、理解を促すための説明を行っているが十分でなく改善が必要である。	
C	理念・基本方針を職員に説明・理解させていない。	

A-9-(1)-② 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	重要な意思決定（変更）にあたり、園長は職員や保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を十分に説明している。	B
B	重要な意思決定（変更）にあたり、園長は職員や保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を説明しているが十分でなく改善が必要である。	
C	重要な意思決定（変更）にあたり、園長は職員や保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を説明していない。	

A-9-(1)-③ 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	主任が個々の職員の業務状況を把握しており、能力や経験に合わせの確な助言や指導を行っている。	B
B	主任が個々の職員の業務状況を把握しており、能力や経験に合わせの確な助言や指導を行っているが十分でなく改善が必要である。	
C	主任が個々の職員の業務状況を把握しておらず、助言や指導を行っていない。	

A-10 効率的な運営

A-10-(1)-① 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	事業運営に影響のある情報の収集・分析をし、重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するとともに、重要な改善課題は職員に周知し園全体で取り組んでいる。	A
B	事業運営に影響のある情報の収集・分析をし、重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するとともに、重要な改善課題は職員に周知し園全体で取り組んでいるが十分でなく改善が必要である。	
C	事業運営に影響のある情報の収集・分析をしていない。	

A-10-(1)-② こども園運営に関して、中長期的な目標を設定している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成し、次代の組織運営に備え運営やサービスプロセスなどを検討している。	A
B	中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成し、次代の組織運営に備え運営やサービスプロセスなどを検討しているが十分でなく改善が必要である。	
C	中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成していない。	

施設のアピールポイント及び課題

	アピールポイント	課 題
A-1 教育・保育の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育においては、個別に対応し、環境を整え、一人一人の育ちを大切にしている。 ・職員間の話し合いや会議も密に行い、心地よく過ごせる場を職員全体で作りに上げている。 ・英語教室・体操教室では講師が人的環境となり、豊かな人間形成へとつながっている。 ・小学校との連携は積極的に行われている。 ・自由制作を取り入れようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びは保育士が用意したものから子どもたちが選ぶことが多く、自発的に遊びたいものを探す環境が整っていない。
A-2 子どもの生活と発達	<ul style="list-style-type: none"> ・食育では、味噌汁の出汁の取り方やバターの手作り方等をクッキングに取り入れている。 ・延長保育の補食を冷蔵庫で管理し、温めてから提供するようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルを職員全体に周知し、実施を行っていく必要がある。 ・ケース会議が不十分。支援に特に関わる保育士間で『すくらむ』を基に話し合い、ケース会議での周知の仕方を改善していくことが必要。
A-3 保護者に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との情報交換や相談はその都度行っている。 ・給食展示では日毎に年齢別の量が展示するなど工夫し、目で見て分かる献立になっている。 ・虐待への対応は、マニュアルを基に適切に行われている。 ・保育参加を希望者に行い、保育内容や子どもの成長に関して理解を深める機会ができ、参加してよかったという保護者から声を頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加の周知は行っているが、参加する保護者がまだ少なく、積極的に参加を呼び掛けていく必要がある。
A-4 苦情解決体制	<ul style="list-style-type: none"> ・投書箱の設置や懇談などで苦情・要望を聞き、その都度対応している。 ・苦情申し出窓口は玄関に掲示しており、入園説明会や書面での周知も行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への保育に関するアンケートなどに取り組めるとよい。
A-5 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや事故報告書等をしっかりと活用し、危険な又は危険が予測される環境や設備があれば、その都度対応している。 ・マニュアルの見直し、変更など行いその時に応じて対応できるように整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の避難方法について、外への避難訓練が実施できておらず、取り組んでいく必要がある。
A-6 地域支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・参加児童の年齢クラスに入って参加する園開放と参加児童で集まり活動するおおぞらクラブと二通りの園開放事業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流や地域の子育てニーズについて理解を深める必要がある。

A-7 ボランティア・実習の受入	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生や職場体験など幅広く受け入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部分実習・完全実習など実習生がもう少し経験できる時間・場を与えていけるとよい。
A-8 職員の人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・園外・園内研修に積極的に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価は行っているが、職員の資質向上にむけ自己研鑽・勉強会等を必要とする。 ・研修報告の改善がなされていない。
A-9 施設長のリーダーシップ・主任の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが業務を分担して行うことで責任を持って取り組むことができた。 ・主任保育士による配置表の作成や業務見直しで保育士の事務時間確保・業務改善に努めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任保育士・副主任保育士から保育士への専門知識や技術の指導を行っていく必要がある。 ・リーダーの職務に偏りがあり、業務内容又は各リーダーの人数の改善の必要がある。
A-10 効率的な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の事業計画・中長期計画・予算に応じた取り組みを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善課題を職員に周知し、事業運営を行っていく必要がある。